

令和 8 年度
九州歯科大学附属病院
歯科医師臨床研修プログラム

九州歯科大学附属病院研修歯科医 採用ポリシー

医療や介護の益々の需要増加が予想される超高齢社会において、住み慣れた地域で最後まで生活できるよう地域包括ケアシステムの構築が進められている。そのような社会環境の変化の中で、全身の健康を守るという視点に立ち、多職種と連携した適切な歯科医療が提供できる歯科医師が求められている。また、一方で、歯科医療のすそ野の広がりに伴い、多様な社会的ニーズに応えられる歯科医師への求めも拡大してきている。九州歯科大学附属病院では、歯科医師臨床研修の基本理念*を尊重しつつ、九州歯科大学附属病院の基本理念**と基本姿勢***に基づき、そのような社会的ニーズに対応できる人材を育成するために多彩なプログラムを準備しており、以下のような人材を求める。

1. ヒューマニズムに富み、より高いレベルのプロフェッショナリズム醸成を目指す人材
2. 口の健康増進を通じて健康寿命の延伸に働きかけることを目指す人材
3. 多職種と連携し、地域に密着した歯科医療の展開を目指す人材
4. 患者のライフステージに寄り添う歯科医療を目指す人材
5. 高度な専門的歯科医療の基盤となる知識・技術の修得を目指す人材

* 歯科医師臨床研修の基本理念

（歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令）

臨床研修は、歯科医師が、歯科医師として的人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

**九州歯科大学附属病院の基本理念

九州歯科大学附属病院は、高度な専門性を持った歯科医療人を育て、地域の歯科医療の中核病院として、最高水準の医療を行います。

***九州歯科大学附属病院の基本姿勢

- ・わたくしたちは、患者さまの尊厳を大切にし、十分な説明の上で理解していただき、納得できる医療を行います。
- ・わたくしたちは、地域の中核病院として、高度で先進的な医療を提供します。
- ・わたくしたちは、地域医療機関や地方自治体と連携し、口腔保健や医療の向上を図ります。

令和 8 年度九州歯科大学附属病院 歯科医師臨床研修プログラム

研修プログラム名称

1. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム A：単独型プログラム（募集数 30 名）
2. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム B：複合型プログラム（募集数 50 名）

研修プログラムの特徴

本院臨床研修プログラムは附属病院で 12 か月間研修を行う単独型のプログラム A と協力型（I）へ 6 か月間出向する複合型のプログラム B で構成されている。両プログラム共に必修研修と選択研修を設け、臨床研修修了後の生涯研修との連続性を考慮したものとなっている。

1. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム A（プログラム番号：050029001）

（1）プログラム責任者 吉居 慎二

副プログラム責任者 吉岡 泉

副プログラム責任者 森川 和政

副プログラム責任者 臼井 通彦

副プログラム責任者 正木 千尋

副プログラム責任者 永松 浩

副プログラム責任者 高橋 理

（2）形 態 九州歯科大学附属病院で共通研修、総合診療研修と専門診療研修を行う単独型プログラム。

（3）特 色 共通研修、総合診療研修では基本術式の習得と医療人としての倫理観の修練を行い、高頻度疾患を多く経験することにより基本的な臨床能力を身につけることが出来る。また、専門診療研修では必要な専門知識の習得と実践など広範囲に研修できるよう構成されている。

（4）指導体制 総合診療科、各専門診療科の指導歯科医が直接研修歯科医の指導に当たる、又は、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医が指導に当たる。

（5）研修期間 令和 8（2026）年 4 月 1 日から令和 9（2027）3 月 31 日までの 1 年間（12 か月九州歯科大学附属病院）

（6）募集人数 30 名

（7）採用方法 書類審査および面接試験により採用希望順位を決定し歯科マッチングシステムに順位登録。マッチング組み合わせ決定後仮契約、歯科医師国家試験の合格者のみ本契約とする。

2. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムB（プログラム番号：050029202）

- (1) プログラム責任者 永松 浩
副プログラム責任者 吉岡 泉
副プログラム責任者 森川 和政
副プログラム責任者 臼井 通彦
副プログラム責任者 正木 千尋
副プログラム責任者 吉居 慎二
副プログラム責任者 高橋 理
- (2) 形態 管理型相当大学病院(6か月)と協力型(Ⅰ)臨床研修施設(6か月)で研修を行う複合型プログラム。管理型相当大学病院で学内研修後、協力型(Ⅰ)臨床研修施設への出向時期は10月～3月。
- (3) 特色 管理型相当大学病院では、共通研修・総合診療研修と専門診療研修を行い、それぞれの診療科における典型的な症例や専門知識の習得など広範囲に研修できるよう構成されている。また、協力型(Ⅰ)臨床研修施設においては、高頻度疾患を多く経験し、医療管理・地域医療等の包括的歯科医療を経験することができる。
- (4) 指導体制 管理型相当大学病院では総合診療科、各専門診療科の指導歯科医が直接研修歯科医の指導に当たる、又は、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医が指導に当たる。協力型(Ⅰ)臨床研修施設では研修実施責任者の下、指導歯科医が指導に当たる。
- (5) 研修期間 令和8(2026)年4月1日から令和9(2027)3月31日までの1年間(6か月九州歯科大学附属病院6か月協力型(Ⅰ)臨床研修施設)
- (6) 募集数 50名
- (7) 採用方法 面接試験により採用希望順位を決定し、歯科マッチングシステムに順位登録。マッチング組み合わせ決定後仮契約、歯科医師国家試験の合格者のみ本契約とする。

表Ⅰ九州歯科大学附属病院での研修内容（プログラムA B 共通）

共通研修	オリエンテーション 医療安全・感染予防講義、保険診療総論、保険診療各論 学校歯科健診、地域保健活動、臨床講義、セミナー、 BLS研修（口腔顎顔面外科、口腔内科・口腔外科） シミュレーション研修
総合診療研修	総合診療科研修 訪問歯科診療研修（口腔リハビリテーションセンター） プログラムAのみ全身管理研修（病棟研修1か月）
ローテーション研修 （13 専門診療科より研修 を希望する科を選択す る）	【専門診療科】 『総合診療部』 1. 総合診療科（1か月、3か月コース） 2. 保存治療科（1か月、3か月、5・6か月コース） 3. 歯周病科（1か月、3か月、5・6か月コース） 4. 義歯科（1か月、3か月、5・6か月コース） 5. 口腔インプラント科（1か月、3か月、5・6か月コース） 『専門診療部』 6. 口腔顎顔面外科（1か月、3か月、5・6か月コース） 7. 口腔内科・口腔外科（1か月、3か月、5・6か月コース） 8. 歯科麻酔科・ペインクリニック (1か月、3か月、5・6か月コース) 9. あんしん科（1か月、3か月コース） 10. 歯科放射線科（1か月コース） 11. 小児歯科（1か月、3か月、5・6か月コース） 12. 矯正歯科（1か月コース） 13. 口腔リハビリテーションセンター（1か月、3か月コース）

※新年度附属病院診療科編成等により変更する場合があります。

研修スケジュール

九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム A

募集数：30 名

形態：九州歯科大学附属病院で総合診療研修とローテーション研修を行う単独型プログラム

プログラム	募集数	出向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム A	30	無	総合診療科研修			ローテーション研修								

- ・総合診療研修とローテーション研修の時期はバランスを考慮して決定
- ・Aの総合診療科研修は3か月間、その期間内に全身管理研修1か月、訪問歯科診療研修1週間とする。但し、表1【専門診療科】6.口腔顎顔面外科 7.口腔内科・口腔外科、13.口腔リハビリテーションセンターを選択する者は行わない。
- ・ローテーション研修は13専門診療科より選択
- ・ローテーション研修の選択方法は下記から選択
 - ①6か月＋3か月コース ②3か月＋3か月＋3か月コース ③6か月＋2か月＋1か月コース
 その他の選択方法については要相談

九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム B

募集数：50 名

形態：管理型臨床研修施設と協力型（Ⅰ）臨床研修施設で研修を行う複合型プログラム

協力型（Ⅰ）臨床研修施設への出向期間は10月～3月の6か月間

プログラム	募集数	出向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム B	50	有	総合	ローテーション研修					協力型（Ⅰ）臨床研修施設					

- ・総合診療研修とローテーション研修の時期はバランスを考慮して決定
- ・Bの総合診療科研修は1か月間、その期間内に訪問歯科診療研修1週間とする。但し、表1【専門診療科】13.口腔リハビリテーションセンターを選択する者は行わない。
- ・ローテーション研修は13専門診療科より選択
- ・ローテーション研修の選択方法は下記から選択
 - ①5か月コース ②3か月＋2か月 ③3か月＋1か月＋1か月コース
- ・協力型（Ⅰ）臨床研修施設研修を総合病院で行う者は、2か月間の研修を表1 ローテーション研修【専門診療科】『総合診療部』1.～5.の中から選択しなければならない。その他の選択方法については要相談

指導体制

1. 管理・運営

公立大学法人九州歯科大学および九州歯科大学附属病院臨床研修管理委員会のもと臨床研修センターがその業務に当たる。

2. 研修管理委員会

九州歯科大学附属病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、九州歯科大学事務局長、各協力型（Ⅰ）臨床研修施設の研修実施責任者、外部委員で構成され、臨床研修の実施の統括管理を行う。

3. 臨床研修運営部会

プログラム責任者、副プログラム責任者、指導歯科医、臨床研修センター員で構成される。

4. 臨床研修指導歯科医（指導歯科医）

研修歯科医を指導する常勤の歯科医師であり、原則5年以上の臨床経験を有し、臨床研修指導歯科医講習会の受講が求められている。総合診療系診療科の指導歯科医は、担当患者の総合治療計画立案、治療および、各種治療手技の習得・習熟を直接指導・評価する。

5. 上級歯科医

指導歯科医以外で、研修歯科医よりも臨床経験の長い歯科医師をいう。いわゆる「屋根瓦方式」の指導体制においては、指導歯科医と研修歯科医の間にあって、重要な役割を担う。治療方針の相談や治療実施後の確認を行う。

6. 歯科医師以外の医療職種（指導者）

歯科衛生士、歯科技工士、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師等、研修歯科医の指導に関係する歯科医師以外の医療職種全てを指す。研修歯科医の真正な評価のために、歯科医師以外の医療職種や患者・家族などからの評価も含めた、いわゆる「360度評価」を実施する。

7. メンター

メンターは、指導を受けるメンティー（研修歯科医）に対して定期的なコミュニケーションをとり、研修の進捗状況の把握を通して研修生活やキャリア形成全般についての助言、精神面でのサポートなど、継続的な支援を行う。

歯科医師臨床研修到達目標に関する評価（プログラムA B共通）

研修目標

患者中心の全人的医療を理解した上で、すべての歯科医師に求められる総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけ、生涯研修の第一歩とする。

研修到達目標

【A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）】

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

【B. 資質・能力】

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症・パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

〔到達目標A、到達目標B評価方法〕

【到達目標A】 研修を通じて常に考え実践する。

【到達目標B】 研修を通じて常に考え実践する。8・9 は臨床講義において知識と視野を広める。

i) 日々の振り返り 指導歯科医とその日の予定のすり合わせを行い、研修終了時にその日の振り返りを行う。

翌日指導歯科医はすり合わせと共に前日の評価を行うことで形成的評価を行う。

ii) 臨床講義を通じ、自己研鑽する。

事前研修課題・事後レポートが課された場合は九州歯科大学 e-learning システム（以下 Moodle）に提出し、講師または指導歯科医が評価する。

iii) 自己評価 5 月・9 月・3 月に、4 段階で評価を行う。これを指導歯科医が形成的に評価する。研修期間を通じて評価が上がるのがのぞましい。

iv) 多面評価 各診療科・施設研修修了時に 5 段階で多職種により多面的に行う。研修修了に向けて評価が上がっているのがのぞましい。

v) 指導歯科医評価 各診療科・施設研修修了時に 5 段階で指導歯科医により行う。これを指導歯科医が形成的に評価する。研修修了に向けて評価が上がっているのがのぞましい。

* iii)～v) の評価基準は別に記載

管理

管理に当たってはクラウド型学習管理システム Moodle を用いる。

【C. 基本的診療業務】

[到達目標C評価方法]

＊いずれのプログラムにおいても目標症例数の数字を目標とし、症例数は診療回数ではなく処置の開始から終了までを担当して1症例をすることを基本とする。

＊本院では原則当該処置の担当歯科医として研修を行うため記載した症例数には同時に経験するものを含み、研修期間を通じて研修歯科医が自験する目標数値とする。

＊症例評価項目が同じ場合同じ目標症例数となるがこの数値は加算されない。

表2〈到達目標症例数、症例評価項目〉

到達目標（目標症例数）	目標 症例数	症例評価項目
C-1. 基本的診療能力等		
(1)基本的診察・検査・診断・診療計画		
① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	50 症例	[初・再診基本項目] ア 初診医療面接 イ 再診医療面接
② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。		[初・再診基本項目] ア 術前・術後バイタルサイン・体調確認 イ 口腔外診査・口腔内診査
③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。		[初・再診基本項目] ア 口腔内写真撮影 イ 「打診」「温度診」「電気歯髄診（歯髄電気診）」等の対象歯の診査 ウ エックス線写真撮影・読影 [歯内治療] エ 根管長測定(EMR)（根管ごと） [歯周治療] オ 歯周組織検査（基本） カ 歯周組織検査（精密） [口腔機能低下症管理] キ 各検査 [小児口腔機能発達不全管理] ク 各検査
④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。		[初・再診基本項目] ア 初診医療面接 イ 再診医療面接 ウ 診療録記載（入力）

		[総合治療計画] エ 一口腔単位の治療計画書の作成
⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。		
⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。		
(2) 基本的臨床技能等		
① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	50 症例	[予防処置] ア 動機付け イ ブラッシング指導 ウ フッ化物応用 エ Hys 処置 オ 予防填塞(シーラント) カ メインテナンス (SC・SRP・PMT)
② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。		
a. 歯の硬組織疾患	10 症例	[歯冠修復(充填)] ア 窩洞形成 イ 歯面前処理(EE・EB) ウ 充填 エ 形態修正・咬合調整 オ 研磨
b. 歯髄疾患	4 症例	[歯内治療] ア 天蓋除去／修復物・コア除去および根管口明示 イ 根管長測定(EMR) (根管ごと) ウ 根管形成 (根管ごと) エ 根管洗浄・貼薬 オ 根管充填 (根管ごと)
c. 歯周病	10 症例	[歯周治療] ア 歯周組織検査 (基本) イ 歯周組織検査 (精密) ウ SC 全顎 エ SRP 前歯・小臼歯 I 歯 オ SRP 大臼歯 I 歯

		カ 咬合調整 キ 固定（I 装置単位）
d. 口腔外科疾患	5 症例	[口腔外科処置] ア 脱臼・抜去・搔爬 イ 洗浄 ウ 縫合・止血確認 エ 止血床・その他 オ 切開・排膿（AA 以上）・搔爬 カ スプリント・ナイトガード等作製 キ スプリント・ナイトガード調整
e. 歯質と歯の欠損	5 症例	[歯冠修復（クラウン・インレー）] ア 支台歯形成（支台築造含む） ／窩洞形成 イ 連合印象採得 ウ プロビジョナルレストレーション （TeC）作製仮着／仮封 エ 咬合採得 オ 歯科技工指示書作成 カ 試適・調整 キ 合着 [欠損補綴 Br] ア 支台歯形成（介助） イ 支台歯形成（自験） ウ 連合印象採得 エ 咬合採得 オ プロビジョナルレストレーション カ （リテーナー）作製仮着 キ 歯科技工指示書作成 ク 試適・調整 ケ 合着
f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	5 症例	[欠損補綴 PD・FD] ア 鉤歯・対鉤歯調整 イ 個人トレー作製・調整 ウ 連合印象採得 エ 咬合採得（咬合床作製） オ 歯科技工指示書作成 カ 試適

		キ 調整・研磨・装着 ク 調整（再診）
	3 症例	[口腔機能低下症管理] ア 口腔機能評価 イ Tongue Coating Index (TCI) ウ 口腔湿潤度 エ 咬合圧検査 オ オーラルディアドコキネシス (ODK) カ 咀嚼能力検査 キ 舌圧検査 ク EAT-10 ケ 管理計画策定 コ 口腔機能管理の実施 [小児口腔機能発達不全管理] ア 口腔機能発達不全症評価 イ 口唇閉鎖力検査 ウ 咀嚼／構音機能診査 エ 管理計画策定 オ 口腔機能管理の実施
③ 基本的な応急処置を実践する。	3 症例	[応急処置] ア 切開排膿 (GA) イ 皮膚・粘膜縫合 ウ (亜)脱臼歯・動揺歯固定 エ 根管開放 オ 破折歯冠修復 カ 有床義歯修理 キ TeC・リテーナー修理、仮着 ク 再装着
④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	50 症例	[初・再診基本項目] ア 術前・術後バイタルサイン・体調確認
⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	5 症例	[初・再診基本項目] ア 診療録記載（入力） イ 文書発行（処方箋・管理文書等） ウ 紹介状・照会状作成

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	【講習会】 研修開始時の「医療安全」に関する講習会および附属病院で年2回開催される「医療安全講習会」を聴講する。	
(3) 患者管理		
① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	【カンファレンス】 ア 患者毎のケース報告において確認する [その他] イ ケース発表(1回目) ウ ケース発表(2回目)	
② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	3 症例	[初・再診基本項目] ア 紹介状・照会状作成
③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	50 症例	[初・再診基本項目] ア 術前・術後バイタルサイン・ 体調確認
④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	【実習付き講習会】 ア BLS 講習会	
(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供		
① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	50 症例	[予防処置] ア 動機付け イ ブラッシング指導 ウ フッ化物応用 エ Hys 処置 オ 予防填塞(シーラント) カ メインテナンス (SC・SRP・PMTc)
② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	[全項目] 全治療に関する各ステップ	
③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	5 症例	[訪問・周術期診療] ア 患者情報の収集・分析 イ 訪問・周術期診療の準備 ウ 患者・家族との情報共有 エ 多(他)職種との情報共有

C-2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等	
(1) 歯科専門職間の連携	
① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	ア 診療 イ レポート評価
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	
③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	ア 診療 イ レポート評価
(2) 多職種連携。地域医療	
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	ア 臨床講義 イ レポート評価
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	
③ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	ア 訪問歯科診療 イ 臨床講義
(3) 地域保健	
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	ア 臨床講義 イ レポート評価
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	
③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。	ア 歯科健診に参加する イ 臨床講義
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	ア 臨床講義 イ レポート評価
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を实践する。	ア 診療 イ 臨床講義
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	ア 臨床講義 イ レポート評価

管理

指導歯科医はケース管理表に基づき処置ごとの症例評価項目の状況を確認し、症例の配当を行う。

講義受講は必須

レポートは指導歯科医が評価し Moodle にて管理する。

到達目標の達成度の評価

総合的な評価に従い常に形成的評価を行う。

【総合診療研修】

指導歯科医評価により評価する。

【協力型（Ⅰ）臨床研修】

実施責任者は協力型（Ⅰ）臨床研修施設においてケース管理を行うと共に 6 か月間の研修評価として指導歯科医評価により評価する。

【専門診療研修】

専門診療科のプログラムに従いケース管理を行うと共に専門診療研修の到達度合を診療科ごとに指導歯科医評価により評価する。

管理

管理に当たっては指導歯科医評価表を用いる。

修了認定

【修了判定を行う項目】

研修歯科医の評価は研修期間途中と研修修了時に行う到達目標の達成度の評価をもって行う。到達目標の達成度の評価は、ケース管理、臨床講義への出席 レポートの提出状況、症例報告内容をもって行う。

研修歯科医としての適性の評価は、日々の振り返り、指導歯科医評価、多面評価、自己評価、勤務状況をもって行う。

【修了判定を行う基準】

- ・ケース管理：表 2 に基づいたケース管理表でケースを管理し、指導歯科医は症例の承認を行う。
目標症例数 100 症例に対し 7 割以上を経験することを研修修了判定の目安とする。
- ・臨床講義：必要な臨床講義は全て出席とする。（欠席時はビデオ聴講とする。）
- ・レポート：全課題に対して提出は必須とする。
- ・症例報告：研修中 2 回の症例報告を行い、指導歯科医の評価に対し省察し、より良い考察が出来ていると指導歯科医が判定できた者。
- ・日々の振り返り：総合的な判断により形成的な変化が認められたと判定できた者。
- ・指導歯科医評価：指導歯科医の視点から歯科医師としての適性に欠くような行動を行っていない者（評価基準 S、A、B）。（評価基準 C、D）について指導歯科医の指導により明らかな行動変容が認められたと判定できた者。
- ・多面評価：歯科医師以外の医療職種の視点から歯科医師としての適性に欠くような行動を行っていない者（評価基準 S、A、B）。（評価基準 C、D）については多方面からの指導により明らかな行動変容が認められたと判定できた者。
- ・自己評価：研修歯科医の自己評価に対し指導歯科医がその評価の妥当性を確認し、3 月での評価において指導歯科医の指導により 5 月・10 月に比較して、経時的な行動変容が認められたと判定できた者。
- ・勤務状況：研修期間を通じて真摯な態度で研修を行っていたと判定できた者。

【修了の決定】

- ・指導歯科医は上記判定をプログラム責任者に報告し、プログラム責任者は指導歯科医の報告に基づき総合的に修了判定を行い、研修管理委員会に報告する。研修管理委員会はプログラム責任者からの報告に基づき研修歯科医の修了を決定する。
- ・研修未修了と判断した場合、当該研修歯科医には原則として同一プログラムにおいて引き続き不足分に関する追加研修を行うこととする。なお、この場合、当該研修歯科医の修了判定は追加研修の進捗状況に合わせて適宜行うこととし、修了が認められた時点で研修修了証を交付する。
- ・臨床研修プログラムの修了が認められた者には病院長より修了証が交付される。

専門診療研修プログラム

専門診療研修では月ごとに研修目標が達成されたと指導歯科医が承認した場合ケース管理に基づいて症例を承認する。

診療科名:総合診療科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】
一般目標
患者の状態に配慮した適切かつ効率的な歯科保健医療を提供するために、基本的な診察・検査・診断及び治療計画立案を実践・習熟する。 日常的に高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する患者に対応するために、基本的な歯科治療に関する技能を身につける。
行動目標・研修内容
①患者のトータルペイン（心理・社会的背景）に配慮する。
②病歴（主訴、現病歴、既往歴及び家族歴）聴取を的確に行う。
③身体診察・口腔内診察を実践・習熟する。
④症例に応じた検査を実践・習熟する。
⑤症例に応じた歯科疾患の診断を行う。
⑥医療面接を通じて、患者との信頼関係構築に努める。
⑦科学的根拠に基づき、患者に説明し、同意を得る。（インフォームドコンセントの取得）
⑧総合的な治療計画を立案する。
⑨歯冠修復に関して診査・診断から充填・合着を行い、1歯につき1症例とする。
⑩歯内治療に関し診査・診断から根管充填まで行い、1歯につき1症例とする。
⑪歯周治療に関し、診査・診断から、歯周基本治療（SC・SRP後の再評価まで）を行い、1口腔につき1症例とする。
⑫補綴治療に関して診査・診断から補綴装置（FMC、Br、FD、PD）装着・装着後のフォローまで行い、1装置につき1症例とする。
⑬救急来院した患者に対し、応急処置（急性炎症に対する除痛、外傷に対する処置、補綴装置等破損の修理）を行なう。
⑭全身疾患がある患者の医科対診を行う。
⑮口腔機能低下症の検査を列挙し、実践できる。

診療科名:保存診療科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5・6ヶ月コース共通】
一般目標
専門的歯内治療およびMIDIに基づく審美修復処置の実施に必須の手技を修得する。 指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。
行動目標・研修内容
①歯の硬組織疾患の診査、診断、治療および予防法を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
③基本的診察姿勢及びミラーテクニック、アシスタントワーク（4ハンドシステム）を修得する。
④歯内治療におけるラバーダム防湿法（隔壁形成を含む）を実施する。
⑤隣接面を含む修復処置を実施する。
⑥根面う蝕への対処法（非侵襲的治療および修復処置）を実施する。
⑦専門的歯内治療（ラバーダム防湿下での手用器具による根管形成・超音波洗浄、貼薬、根管充填、仮封）を実施する。
【3ヶ月コース】
一般目標
マイクロスコープを用いたミラーテクニックと口腔内診査を修得する。 3ヶ月コースは患者配当型を基本とする。
行動目標・研修内容
①顕微鏡下によるミラーテクニックの方法と口腔内診査を実施する。
【5・6ヶ月コース】
一般目標
マイクロスコープを用いた歯内治療・審美修復処置の基本的な手技を修得する。 6ヶ月コースは患者配当型を基本とする。
行動目標・研修内容
①顕微鏡下による窩洞形成、根管治療を実施する。

診療科名:歯周病科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5・6ヶ月コース共通】
一般目標
歯周疾患の病態を理解し、適切な治療の補助・処置を行うことができる。難度の高い歯周基本治療（根面溝・根分岐部病変を有する歯のSRPなど）技術を習得する。 指導歯科医・上級歯科医の指導のもと、治療・治療補助を行う。（患者配当型） 経験した症例を1症例とする。
行動目標・研修内容
①歯周疾患の検査、診断、治療を説明する。（医療面接）
②適切な検査方法を用い、的確な診断を行い、治療計画を立案する。（医療面接 症例検討）
③難易度の高い歯周基本治療（根面溝・根分岐部病変を有する歯のSRPなど）を実施する。（医療面接 治療実施）
【3ヶ月コース】
一般目標
1ヶ月コースの内容に加え、歯周外科（フラップ手術、歯周組織再生療法、歯周形成術など）の診療補助を行い、その手技を見学する。
行動目標・研修内容
①歯周外科（フラップ手術、歯周組織再生療法、歯周形成術など）の診療補助を行う。（症例検討 診療補助）

【6ヶ月コース】
一般目標
3ヶ月コースの内容に加え、担当患者の歯周外科（フラップ手術、歯周組織再生療法、歯周形成術など）を指導歯科医・上級歯科医の指導のもと計画・実施し、必要最低限の外科的手技を習得する。 外科手術後の経過観察を行い、必要に応じて口腔機能回復治療やメンテナンス・SPTを実施する。
行動目標・研修内容
①担当した患者の歯周外科（主にはフラップ手術、本人の努力次第では歯周組織再生療法、歯周形成術も対象）を実施する。
②歯周治療による歯周組織の改善を評価し、その後の口腔機能回復治療、メンテナンス・SPTを実施する。

診療科名：義歯科
【1ヶ月・3ヶ月コース・5・6か月コース】
一般目標
全部床欠損、部分床欠損、顎欠損を有する患者のうち、比較的難易度の高い症例を経験することで、有床義歯補綴を中心とした補綴治療の臨床手技および技工手技を習得できる。これらの患者の補綴的機能回復について研修医自身がすべてを実践する。したがって、短期間（1～3か月）ではこれらのことを行うことは難しく、できるだけ長い研修が望ましい。有床補綴治療以外には、スプリント治療をはじめとする顎機能障害に対する治療やインプラント治療を除くCr-Br治療、さらに睡眠時無呼吸症に対するスリープスプリントによる治療も実践できる。研修期間中、他の専門科では学べない歯科補綴学についてより専門的な知識を指導医から学び、診察・検査・診断及び治療計画立案に必要な補綴の専門知識を学修できる。見学や座学ではなく、すべてを実践することは自身へのフィードバックが大きく、将来の歯科医師人生においては有益な学びが可能となる。歯科臨床は人間関係での構築が重要で、長期の研修でなければ実践できない。
【1ヶ月・3ヶ月コース】
行動目標・研修内容
①患者に配慮した医療面接を見学する。
②上級歯科医・指導歯科医が行う検査結果・所見、診断、治療計画に関する患者への説明および同意を得る過程を見学する。
③補綴装置等の破損や脱離のため緊急来院した患者に対し、応急処置の介助または見学を行う。
④欠損補綴治療に関して診査・診断から補綴装置（Br、PD、FD）装着・装着後のフォローまでの見学または介助する。
⑤顎欠損補綴治療に関して診査・診断から顎補綴装置装着・装着後のフォローまでの治療を見学または介助する。
⑥睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療に関して診査・診断から口腔内装置装着・装着後のフォローまでの治療を見学または介助する。
⑦診療に関する書類・記録（診療録、処方せん、歯科技工指示書、診療情報提供書等）を正確に記載する。
【5・6か月コース】
行動目標・研修内容
①患者に配慮した医療面接を行うことができる。
②上級歯科医・指導歯科医が行う検査結果・所見、診断、治療計画に関する患者への説明および同意を得ることができる。
③補綴装置等の破損や脱離のため緊急来院した患者に対し、応急処置を行うことができる。
④欠損補綴治療に関して診査・診断から補綴装置（Br、PD、FD）装着・装着後のフォローまでを行うことができる。
⑤顎欠損補綴治療に関して診査・診断から顎補綴装置装着・装着後のフォローまでの治療を行うことができる。
⑥睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療に関して診査・診断から口腔内装置装着・装着後のフォローまでを行うことができる。
⑦診療に関する書類・記録（診療録、処方せん、歯科技工指示書、診療情報提供書等）を正確に記載することができる。

診療科名：口腔インプラント科
【1ヶ月コース】
一般目標
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全體的な診査・診断、治療計画の立案、機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を身につける。
行動目標・研修内容
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジに必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジの適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジの計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジに補助として参画する。
⑤クラウン・ブリッジのメンテナンスに参画する。
【3ヶ月コース】
一般目標
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全體的な診査・診断、治療計画の立案、インプラントを含めた機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を身につける。
行動目標・研修内容
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い診療補助を行う。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
【5・6ヶ月コース】
一般目標
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全體的な診査・診断、治療計画の立案、インプラントや審美補綴、デジタルデンティストリーを含めた機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を修得する。
行動目標・研修内容
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。

③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い診療補助を行う。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
⑦審美補綴治療の計画の症例検討を行う。
⑧審美補綴治療の診療補助として治療に参画する。
⑨オーラルスキャナーなどデジタルデンティストリーを応用した補綴治療の症例検討を行い、治療の診療補助として参画する。

診療科名：口腔顎顔面外科
【1ヶ月コース・3ヶ月・5・6ヶ月コース共通】
一般目標
口腔外科疾患の病態と臨床経過を把握する。また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）
行動目標・研修内容
①口腔外科的疾患の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
【1ヶ月コース】一般目標
有病者患者の普通抜歯適応症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、軟組織外傷、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。
行動目標・研修内容
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②歯性感染症治療を実施する。
③嚢胞性疾患治療を実施する。
④軟組織縫合術を実施する。
⑤入院管理に必要な検査を説明する。
⑥入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑦診療に必要な診療情報提供書を作成する。
【3ヶ月コース】一般目標
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎関節脱臼、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。口腔機能低下症、摂食嚥下障害治療を実施する。
行動目標・研修内容
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②歯性感染症治療を実施する。
③簡単な埋伏歯抜歯術を実施する。
④嚢胞性疾患治療を実施する。
⑤歯の整復固定を実施する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明する。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑪診療に必要な診療情報提供書を作成する。
【5・6ヶ月コース】一般目標
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎関節脱臼、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。口腔機能低下症、摂食嚥下障害治療を実施する。全身麻酔下または静脈内鎮静法下小手術における執刀医経験をする。
行動目標・研修内容
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②歯性感染症治療を実施する。
③簡単な埋伏歯抜歯術を実施する。
④嚢胞性疾患治療を実施する。
⑤歯の整復固定を実施する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明する。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑪全身麻酔下または静脈内鎮静法下にて小手術を実施する。
⑫診療に必要な診療情報提供書を作成する。

診療科名：口腔内科・口腔外科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5・6ヶ月コース共通】
一般目標
口腔外科疾患の病態と臨床経過を把握する。また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）

行動目標・研修内容
①医療面接において口腔外科的疾患の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
【1ヶ月コース】
一般目標
有病者患者の普通抜歯適応症例、歯性感染症、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。
行動目標
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症治療、粘膜疾患の症例検討、診療補助、治療の実践をする。
【3ヶ月コース】
一般目標
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。
行動目標
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術、を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
【5・6ヶ月コース】
一般目標
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。模型実習や手術症例（全身麻酔・局所麻酔）の実践を通して、口腔外科処置の技術を習得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。カンファレンスに参加し、治療の流れの理解、口腔外科の知識の習得をした上で、実際に治療計画の作成を行う。
行動目標
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。指導歯科医師の下で、担当患者の治療計画の立案、患者への説明や、処置の実施を行う。

診療科名:歯科麻酔科・ペインクリニック
【1ヶ月・3ヶ月コース共通】
一般目標
患者の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型）
行動目標
①周術期管理に必要な患者情報を患者に説明し症例検討を行う。
②適切な方法を用い、的確な診査、診断、検査結果の解釈をする。
【5・6ヶ月コース】
一般目標
外来、手術室でのモニター管理、静脈路確保、気道確保を含めた静脈内鎮静法の周術期管理、気管挿管（ファイバー挿管を含む）などの高度な気道管理や動脈圧ライン確保を含む全身麻酔の周術期管理を修得する。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型） 研修歯科医の希望に応じて歯科麻酔科・ペインクリニック外来で指導歯科医・上級歯科医の指導の下、神経ブロック（三叉神経節ブロック、星状神経節ブロック、トリガーポイントブロック等）を含めた難治性の口腔顔面痛診療を行う。（患者配当型）
行動目標
①外来、手術室での静脈内鎮静法、全身麻酔の症例検討を行い診療補助を行う。
②再建手術の周術期管理に必要な検査、モニタリングを説明し、医療面接を行う。
③再建手術の周術期管理に際し症例検討を行い診療補助として参画する。
④難治性の口腔顔面痛に対する対応・治療法を正しく理解する。
⑤将来的な日本歯科麻酔学会認定医、日本口腔顔面痛学会認定医取得を目指し必要な症例の収集などを行う。

診療科名:あんしん科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】
一般目標
障害者・有病者の身体的および心理的な特徴と歯科診療上の留意点を理解する。また、患者の病態と臨床経過を把握し、医療面接から得られた情報をもとに、全身管理を主軸とした歯科治療計画のための知識・態度・技術を修得することができる。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う（患者配当型）。
行動目標
①患者の全身状態の評価と、必要な対応を行うことができる。
②患者の全身状態を把握したうえで、最適な治療計画を構築することができる。
【1ヶ月コース】
一般目標
障害者・有病者の全身状態から適切な評価と診断を行うことができ、必要な治療計画を立てることができる。また、行動調整法である行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を選択し適切に行うことができる。（患者配当型）
行動目標
①患者の全身状態の評価と、必要な行動調整法を選択することができる。
②適切な行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を行うことができる。
【3ヶ月コース】
一般目標
1ヶ月コースの目標に加え、必要な治療計画を立て、その治療を実行することができる。また、専門的な行動調整法である静脈内鎮静法、全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。周術期管理までを含めた患者管理を行うことができる。（患者配当型）
行動目標
①患者の全身状態の評価と、必要な行動調整法を選択することができる。
②適切な行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を行うことができる。
③静脈内鎮静法による歯科治療を行うことができる。
④全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。

診療科名:歯科放射線科
【1ヶ月コース】
一般目標
歯科疾患を診断するための基本的画像の撮影法を習得する。 歯科疾患を診断するための正常画像所見を習得する。 日常臨床で遭遇する頻度の高い歯科関連疾患の臨床的及び画像的特徴を把握する。 研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、検査・診断を行う。(患者配当型)
行動目標
①デンタル・パノラマエックス線写真、歯科用CBCTの撮影を行う。
②成書、PACSにより正常画像解剖の学習をする。
③読影報告書の作成 症例検討を行う。
④放射線防護に関する知識を習得する
診療科名:小児歯科
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5・6か月コース共通】
一般目標
日常的に高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する小児患者に安全な歯科保健医療を提供するために、基本的な歯科治療技術とマネージメント能力を身につける。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。(患者配当型) 各行動目標を経験した場合、それぞれを1例とする。
【1ヶ月コース・3ヶ月コース+5・6か月コース】
行動目標
①小児の心身の発育状態に適した対応法をする。+非協力児へ適切な対応をする。
②主訴を的確に捉え、患者や保護者に適切に対応する。+ラポールの形成ができるようになる。
③適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。+小児特有な疾患に対する適切な診査、診断をする。
④I口腔単位を基本とした齲蝕治療を選択し、実施する。
⑤歯周疾患の診査、診断ができ、適切な処置をする。
⑥外傷歯に対する適切な処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑦保障処置の診断ができ、適切な保障装置の作製および処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑧乳歯抜歯の適応症が説明でき、実施する。+乳歯難抜歯を実施する。
⑨軟組織疾患について診査、診断および適切な処置をする。
⑩患者の年齢、口腔状況に応じた予防処置をする。
診療科名:矯正歯科
【1ヶ月コース】
一般目標
歯や口腔機能を回復する役割を担う歯科の中における、矯正歯科の役割を理解するために、診察・検査・診断、治療計画立案、矯正装置の使用に関する基本的な知識・技能・態度を身につける。 研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医とともに指導の下で検査、診断、治療を行う。 経験または見学した症例を各1症例として数える。
行動目標
①初診医療面接を診療補助、見学する。
② 矯正歯科治療の概略(治療方法、ベネフィット、リスク、治療期間)を説明するため、歯式記録、全身的病歴、既往歴、家族歴を聴取する。
③不正咬合に関係する口腔内・外診察を行うため矯正診断に必要な検査(印象・咬合採得、顎態模型の製作、顔面規格写真・口腔内写真撮影、頭部X線規格写真の撮影依頼)の実施、見学を行う。
④顔面・口腔内写真、X線写真の評価や、顎態模型、頭部X線規格写真の分析を行い、治療方針、治療計画を立案する。
⑤各種矯正装置の構造、機能を理解し、使用方法の説明に対する診療を見学、診療補助を行う。
⑥ 矯正治療の経過に対する診療を見学、診療補助を行う。
⑦症例に関するカンファレンスや学会等に参加する。
診療科名:口腔リハビリテーションセンター
【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】
一般目標
要介護高齢者、口腔機能低下症、摂食嚥下障害の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う(患者配当型)。 適宜、歯科衛生士と連携し、指導を受ける。
行動目標
①口腔機能低下症、摂食嚥下障害の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
【1ヶ月コース】
一般目標
外来患者の口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度を修得する。
行動目標
①口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を実施する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療に参画する。
【3ヶ月コース】
一般目標
外来患者の口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。
行動目標
①口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を実施する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療に参画する。

施設の概要

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| 1. 臨床研修施設名 | 公立大学法人 九州歯科大学附属病院（研修施設番号 050029） |
| 2. 所在地 | 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 |
| 3. 臨床研修施設長 | 病院長 川元 龍夫 |
| 4. 研修管理委員会 | 九州歯科大学附属病院臨床研修管理委員会 |
| 5. 研修統括責任者 | 病院長・研修管理委員会委員長 川元 龍夫 |
| 6. 事務部門 | 臨床研修センター |
| 7. 指導歯科医師数 | 66 名（予定） |
| 8. 協力型（Ⅰ）臨床研修施設 | 47 施設（予定） |

研修歯科医の処遇

- 公立大学法人 九州歯科大学附属病院（プログラム A 12 か月，プログラム B 6 か月）

身分	：九州歯科大学附属病院 非常勤職員
給与	：月額 180,816 円（約 1,111 円／時）令和 7 年度実績
賞与	：なし
交通費	：日額上限 700 円（令和 7 年度実績）
勤務時間	：8 時 30 分～17 時 15 分（休憩時間 12 時 00 分～13 時 00 分）
休暇	：土曜日・日曜日・祝日、年末年始休暇 年次有給休暇（4/1～5 日間、10/1～5 日間 合計年間 10 日間）
時間外勤務	：原則なし
当直	：原則なし
宿舍、住宅手当	：なし
控室及びロッカー	：有
白衣	：1 枚貸与
社会保険	：健康保険（公立学校共済組合）・厚生年金・雇用保険
労働災害保険	：適用あり
健康管理	：健康診断（年 1 回実施） B 型肝炎、麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘抗体検査
歯科医師賠償保険	：個人加入必須（但し、費用は自己負担） 施設加入有り
学内研修	：医療安全講習会（年 2 回）、人権セミナー
外部研修	：学会、研究会等への参加は可、費用支給なし
- 協力型（Ⅰ）臨床研修施設 47 施設（プログラム B 6 か月）

協力型（Ⅰ）臨床研修施設へは管理型相当大学病院からの在籍出向とし、出向契約を結ぶ。
年次有給休暇は管理型相当大学病院の基準を適応する。
その他は協力型（Ⅰ）臨床研修施設の就業規則に従い、各施設の処遇によるものとする。

協力型（Ⅰ）臨床研修施設（47 施設）

	施設名	施設住所	実施責任者
1	井上秀人歯科インプラントクリニック	北九州市小倉北区井堀 2-8-12	井上 秀人
2	医療法人仁和会 カナザキ歯科	愛媛県松山市南梅本町甲 878-5	金崎 伸幸
3	医療法人 立山 立山歯科医院	福岡県小郡市井上 1033-7	平山 昂希
4	医療法人ヤマヂ歯科・矯正歯科クリニック	北九州市小倉北区中井 5-4-26	山地晃二郎
5	金藤歯科医院	福岡県福岡市早良区高取 1-1-22	金藤 哲明
6	若松歯科医院	福岡県遠賀郡芦屋町中ノ浜 12-22	若松 敏行
7	中崎歯科医院	宮崎県児湯郡高鍋町北高鍋 1024-1	中崎 裕
8	イースト歯科クリニック	広島県広島市南区段原南 1-3-53	上田 裕次
9	医療法人福和会 別府歯科医院	福岡県福岡市東区千早 4-27-1	別府 謙次
10	医療法人 宝歯会 かじわら歯科医院	北九州市若松区下原町 1-1	梶原 浩喜
11	医療法人健栄会 門司歯科医院	佐賀県鳥栖市田代上町 221 番地	一木 数由
12	角岡歯科医院 熊本診療所	熊本県熊本市南区馬渡 2-17-1	角岡 宏亮
13	医療法人有真会 たかさき歯科医院	奈良県香芝市五位堂 3-458-1	高崎 真一
14	医療法人社団尚風会 ひがた歯科医院	千葉県匝瑳市椿 1267-14	大淵 澄人
15	独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院	山口県周南市孝田町 1-1	村木 祐孝
16	しげずみ歯科医院	北九州市小倉南区横代 497-26	重住 大乘
17	医療法人 拓医会 本田歯科医院	福岡県那珂川市中原 2-132	本田 拓也
18	アルファデンタルクリニック	山口県山口市泉町 1-41	渡辺 徹
19	丸山歯科医院	静岡県焼津市相川 1061-1	丸山 誠二
20	公益社団法人日本海員掖済会 門司掖済会病院	北九州市門司区清滝 1-3-1	吉賀 大午
21	ひろ歯科医院	福岡県宗像市田久 3-3-7	村田 博志
22	医療法人社団 富泉会 丸ノ内センタービル歯科・矯正歯科	東京都千代田区丸ノ内 1-6-1 丸ノ内センタービル 1F	佐藤 圭
23	医療法人福和会 和泉二島予防・歯科クリニック	北九州市若松区二島 3-1-40	別府 和泉
24	医療法人エアビーイング 竹田歯科医院	福岡県福岡市早良区小田部 1-1-32	竹田 晴彦
25	品川東口歯科	東京都港区港南 2-4-7 石橋ビル 2F	能勢 隆介
26	医療法人福和会 行橋グリーン歯科医院	福岡県行橋市行事 1 丁目 2-10	鹿山 武海
27	あかま歯科クリニック	福岡県直方市感田 1887-13	赤間 廣輔
28	ひらもと歯科	北九州市小倉北区大手町 12-4 スピナマート大手町内	平本 悦次

	施設名	施設住所	実施責任者
29	田川市立病院	福岡県田川市大字楠 1700 番地 2	天野 裕治
30	医療法人 村上歯科医院	北九州市小倉北区米町 2-2-1	村上 大基
31	山之内歯科医院	北九州市小倉北区神幸町 4-6	山之内達哉
32	社会医療法人共愛会 戸畑共立病院	北九州市戸畑区沢見 2-5-1	古田 功彦
33	下関市立市民病院	山口県下関市向洋町 1-13-1	上原 雅隆
34	愛デンタルクリニック	北九州市八幡西区八千代町 4-26	植田 愛彦
35	戸畑総合病院	北九州市戸畑区福柳木 1-3-33	石田 力大
36	いわいグリーン歯科・矯正歯科	茨城県坂東市辺田 635-1	坂本健二郎
37	医療法人福和会 丸の内歯科 丸の内こども歯科	福岡県田川郡大任町今任原有次 3077	木戸 千隼
38	医療法人湘誉会 又吉総合歯科医院	神奈川県鎌倉市小袋谷 553-5	又吉 誉章
39	いたや小児歯科大人歯科医院	北九州市小倉北区片野新町 1-12-25	板家 朗
40	ひらい歯科クリニック	北九州市小倉北区片野新町 1-1-29	平井 典和
41	きし歯科ファミリークリニック	大分県大分市賀来西 1 丁目 12-3	岸 岳宏
42	ひうら歯科クリニック	北九州市小倉北区井堀 3-2-1	日浦 正道
43	医療法人 発達歯科会 おがた小児歯科医院	福岡県福岡市博多区博多駅東 1-13-17 松岡ビル 3 階	石倉 行男
44	みうら歯科医院	福岡県大牟田市草木 215-2	三浦 弘喜
45	友枝歯科・矯正歯科クリニック平尾	福岡市中央区平尾 1 丁目 13-25 国泰ビル 1F	友枝 亮
46	浜松歯科	静岡県浜松市中央区西伊場町 62-6	中野 陽平
47	医療法人社団 柄歯科医院	広島県広島市中区本通 7-30 つちやビル 2 階	柄 慎太郎

C.基本的診療項目		承認項目		自験承認症例数													ケース		総施行数	4月施行数	5月施行数	6月施行数	7月施行数	8月施行数	9月施行数	10月施行数	11月施行数	12月施行数	1月施行数	2月施行数	3月施行数
初・再診基本項目		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	自験症例患者に関する治療計画を作成する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)④⑤		50	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①	術前・術後・バイタルサイン・体調確認	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(3)①②③			初診医療面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	口腔内写真撮影エックス線撮影・読影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			再診医療面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	③	診療録記載(入力)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																④	文書発行(処方箋・管理文書等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																⑤	紹介状・照会状作成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
予防処置		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	フッ化物応用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)①		50	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	Hys処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(4)①			予防処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	③	予防填塞(シーラント)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯冠修復(充填)		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	麻酔(OA+浸麻)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②a		10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	ラバーダム防湿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																③	窩洞形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
																	④	歯面前処理(EE・EB)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑤	充填・形態修正・咬合調整・研磨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯内治療		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	天蓋除去／修復物・コア除去および根管口明示	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②b		4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	根管長測定(EMR)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	根管形成・根管洗浄・貼薬・仮封	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	④	根管充填・仮封	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯周治療		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	歯周組織検査(基本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②c		10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	歯周組織検査(精密)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	SC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	④	麻酔(OA+浸麻)・SRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑤	咬合調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑥	固定(1装置単位)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
口腔外科処置		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																
C1-(2)②d		5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	①	麻酔(OA+浸麻・伝麻)脱臼・抜去・揺爬・止血確認	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	②	麻酔(OA+浸麻・伝麻)切開・脱臼・抜去・揺爬・縫合・止血確認	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																		③	麻酔(OA+浸麻)・排膿(AA以上)・揺爬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
																		④	スプリント・ナイトガード作成・調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯冠修復(クラウン・インレー)		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	支台歯形成(支台築造含む)／窩洞形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②e		5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	適合印象採得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	プロビジョナルレストレーション(TeC)作製仮着／仮封	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																		④	咬合採得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠損補綴Br		歯冠修復ブリッジ(①～⑥の一部のみでも可)																													
C1-(2)②e																	⑤	技工指示書作成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑥	試適・調整・合着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
欠損補綴PD・FD		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	鈎歯・対鈎歯調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②e		5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	個人トレー作製・調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	適合印象採得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	④	咬合採得(咬合床作製)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑤	技工指示書作成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑥	試適・調整・研磨・装着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑦	調整(再診)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
口腔機能低下症管理		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	Tongue Coating Index(TCI)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)②f		3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	口腔湿潤度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	咬合圧検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	④	オーラルディアドコネシス(ODK)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑤	咀嚼能力検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑥	舌圧検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑦	EAT-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑧	口唇閉鎖力検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑨	咀嚼／構音機能診査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	⑩	管理計画策定・口腔機能管理の実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
応急処置		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	有床義歯修理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(2)③		3	1	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	TeC・リテーナー修理、仮着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
																	③	再装着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	④	(亜)脱臼歯・動揺歯固定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	④	皮膚・粘膜縫合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
																	⑥	切開排膿(GA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
訪問・周術期診療		目標症例数	総承認数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	①	訪問・周術期診療の準備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1-(4)③		5	1	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	②	患者情報の収集・分析	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

指導歯科医評価 評価基準

* 一般的評価

		評価点	5	4	3	2	1
	研修活動	評価の基準	S	A	B	C	D
1)	職場環境の理解	・ 職場環境を自ら進んで観察し、理解・実行する。	①職場におけるルールを観察し理解・実行している。 ②職場における物の配置を観察し理解・実行している。 ③動線を観察し理解・実行している。 ④診療録、その他、患者の診療に関する記録・文書の閲覧のルールが守られている。	実行しようとしている	理解しようとしている	観察しようとしている	職場のルールが理解出来ていない
2)	身だしなみ	・ 診療スタイルを適正に維持する。 ・ 身だしなみを適正に調える。	①清潔な白衣・帽子あるいは決められたスタッフ着を着用している。 ②無精ひげでない。 ③髪型や頭髪の色が清潔感がある。 ④髪型が診療に適していると思われる。 ⑤華美なアクセサリーを着用していない。 ⑥汗臭さや体臭に配慮している。 ⑦香水・フレグランスが過度でない。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
3)	挨拶	・ 患者さん・スタッフに状況に応じた挨拶ができる。	①診療前に患者さんに挨拶ができる。 ②診療後に患者さんに声かけができる。 ③職場(診療室、スタッフルーム)に入るときに挨拶ができる。 ④職場を出るときに残っているスタッフに声かけができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
4)	整理・整頓	・ 必要な資料・診療録、技工物や、私物の整理整頓ができています。	①診療録、その他、患者の診療に関する記録・文書を記入・閲覧後、速やかに所定の場所に返すことができる。 ②X線フィルムを閲覧後速やかに所定の場所に返すことができる。 ③印象採得物、模型、技工物を放置せず、所定の位置に戻すことができる。 ④研修に用いる、マネキンや模型、バー類の管理、使用後の後片付けができています。 ⑤スタッフルームにおいて、私物を指定されたスペースに収納し放置していない。 ⑥自分の事だけでなく全体の整理整頓を積極的に行うことができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
5)	時間・締め切りの厳守	・ 無断欠勤や遅刻をしない。 ・ 休憩時間などをルーズにしない。 ・ 提出物の締め切りを守る。	①無断で欠勤しない。 ②有給休暇取得の際は事前に届ける。 ③当日体調不良の時は、速やかにその旨の連絡を入れる。 ④交通事情その他で遅刻しそうなときは、途中でその旨の連絡を入れる。 ⑤休憩時間など自己管理のもと取得可能な時間帯を守る。 ⑥指示された提出物の締め切りを守ることができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
6)	報告・相談	・ 指導歯科医、上級歯科医から指示された業務実施後に速やかに実施報告ができる。 ・ 異常や問題発生時に状況や対応内容について速やかに報告・相談できる。 ・ 患者診療や自身のことについて、問題が生じたときに、早めに指導歯科医や上級歯科医、メンター、職場のスタッフに相談できる。	①指導歯科医や上級歯科医に指示された業務完了時に実施報告ができる。 ②完了できない時は、その理由と現状を報告できる。 ③患者診療を含む研修中に、想定外の事態や、問題が発生した時、その状況と対応状況について、上級歯科医に報告・相談できる。 ④職場での人間関係がうまくいかないときに同僚歯科医（指導歯科医・上級歯科医・メンター・ほかの研修歯科医）や職場のスタッフに進んで相談できる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
7)	情報共有	・ 患者診療に関する情報や診療所運営上必要な情報の伝達、連絡ができる。	①指導歯科医や同僚に患者診療に関する引き継ぎや注意事項の連絡ができる。 ②指導歯科医、上級歯科医からの指示を適切に伝達できる。 ③患者・診療に関する必要な情報をスタッフと適切に共有できる。 ④事前にわかっている欠勤・遅刻・早退について、事前に連絡でき、スタッフに迷惑をかけていない。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない

8)	日報の内容・提出状況	・日々の研修において研修内容が把握できるように記載されている。 ・日々の適切な振り返りができる。	①研修当日の予定を記載している。 ②記載されている予定の内容を把握している。 ③一日の研修の振り返りができている。 ④指導歯科医への提出の遅延がない。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
----	------------	---	--	-----------	-----------	-----------	----------------

＊技能および知識に関する評価

		評価点	5	4	3	2	1
	研修活動	評価の基準	S	A	B	C	D
1)	治療手技	・治療計画に基づいた治療が適正に実践できる。 ・未熟な手技について習熟に努める。	①基本的な手技を実践できる。 ②自ら行う手技についてシュミレーションができている。 ③シュミレーションを行う際に偶発的に起こりうる事故についても考慮し、その際行うべき処置についてもシュミレーションができている。 ④診療前、診療中、診療後に実施内容について指導歯科医・上級歯科医へ適宜報告できる。 ⑤実施できない手技についてはその旨申告し指示を仰ぐことができる。 ⑥未熟な手技については指示・許可の下シミュレータ等で練習ができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	4項目以上できていない
2)	患者情報収集	・患者の診断治療計画立案に必要な情報収集ができる。	①診療録や関連資料、（それぞれデジタル情報を含む）を確認することができる。 ②X線フィルムデジタル情報を含む）を確認することができる。 ③医療面接を適正に実施することができる。 ④必要な検査を実施・指示できる。 ⑤収集した情報を整理・記録できる。 ⑥指導歯科医・上級歯科医へ情報を報告できる。 ⑦スタッフに対し患者に必要な情報を共有している。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	4項目以上できていない
3)	治療計画立案	・収集した情報から問題点を挙げて診断し、適正な治療計画を立案できる。	①問題点を挙げるができる。 ②適切な診断ができる。 ③クリティカルパスを適応できる。 ④優先順位を考慮した治療計画を立案できる。 ⑤患者の心理・社会的背景に配慮することができる。 ⑥自分が立てた治療計画を指導歯科医に説明し、ディスカッションすることができる。 ⑦カンファレンス・症例検討会で報告できる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	4項目以上できていない
4)	診療に必要な知識の習得	・診療に必要な知識を積極的に深めていく努力がみられる。	①わからない事、疑問に思った事を積極的に調べることができる。 ②カンファレンスで積極的に発言する。 ③講演会や勉強会など勧められた研修に積極的に参加する。	積極的ではないが行っている	1項目できていない	2項目できていない	行っていないとは思えない
5)	清潔の概念・感染予防	・スタンダードプリコーションが実践できる。 ・新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止が実践できる。	①適正な手洗いができる。 ②患者ごと処置ごとにグローブ・エプロンを交換できる。 ③マスク・エプロン・フェースシールド・帽子を適正に着用できる。 ④血液・体液の付着したもの（感染性廃棄物）を適正に取り扱うことができる。 ⑤基本セット、ハンドピース、バー・ポイント類を患者毎に取り替えることまたはその指示ができる。 ⑥エアロゾルに対する配慮が行われている。	相談できる	相談しようとしているのが感じられる。	相談せずに勝手な判断をしている	

多面評価 評価基準

＊一般的評価

		評価点	5	4	3	2	1
	研修活動	評価の基準	S	A	B	C	D
1)	職場環境の理解	・ 職場環境を自ら進んで観察し、理解・実行する。	①職場におけるルールを観察し理解・実行している。 ②職場における物の配置を観察し、理解・実行している。 ③動線を観察し、理解・実行している。 ④診療録、その他、患者の診療に関する記録・文書の閲覧のルールが守られている。	実行しようとしている	理解しようとしている。	観察しようとしている	職場のルールが理解出来ていない
2)	身だしなみ	・ 診療スタイルを適正に維持する。 ・ 身だしなみを適正に調える。	①清潔な白衣・帽子あるいは決められたスタッフ着を着用している。 ②無精ひげでない。 ③髪型や頭髪の色が清潔感がある。 ④髪型が診療に適していると思われる。 ⑤華美なアクセサリーを着用していない。 ⑥汗臭さや体臭に配慮している。 ⑦香水・フレグランスが過度でない。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
3)	挨拶	・ 患者さん・スタッフに状況に応じた挨拶ができる。	①診療前に患者さんに挨拶ができる。 ②診療後に患者さんに声かけができる。 ③職場(診療室、スタッフルーム)に入るときに挨拶ができる。 ④職場を出るときに残っているスタッフに声かけができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
4)	整理・整頓	・ 必要な資料・診療録、技工物や、私物の整理整頓ができています。	①診療録、その他、患者の診療に関する記録・文書を記入・閲覧後、速やかに所定の場所に返すことができる。 ②X線フィルムを閲覧後速やかに所定の場所に返すことができる。 ③印象採得物、模型、技工物を放置せず、所定の位置に戻すことができる。 ④研修に用いる、マネキンや模型、バー類の管理、使用後の後片付けができています。 ⑤スタッフルームにおいて、私物を指定されたスペースに収納し放置していない。 ⑥自分の事だけでなく全体の整理整頓を積極的に行うことができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
5)	時間・締め切りの厳守	・ 無断欠勤や遅刻をしない。 ・ 休憩時間などをルーズにしない。 ・ 提出物の締め切りを守る。	①無断で遅刻や欠勤をしない。 ②有給休暇取得の際は事前に届ける。 ③当日体調不良の時は、速やかにその旨の連絡を入れる。 ④交通事情その他で遅刻しそうなときは、途中でその旨の連絡を入れる。 ⑤休憩時間など自己管理のもと取得可能な時間帯を守る。 ⑥指示された提出物の締め切りを守ることができる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
6)	報告・相談	・ 指導歯科医、上級歯科医から指示された業務実施後に速やかに実施報告ができる。 ・ 異常や問題発生時に状況や対応内容について速やかに報告・相談できる。 ・ 患者診療や自身のことについて、問題が生じたときに、早めに指導歯科医や上級歯科医、メンター、職場のスタッフに相談できる。	①指導歯科医や上級歯科医に指示された業務完了時に実施報告ができる。 ②完了できない時は、その理由と現状を報告できる。 ③患者診療を含む研修中に、想定外の事態や、問題が発生した時、その状況と対応状況について、上級歯科医に報告・相談できる。 ④職場での人間関係がうまくいかないときに同僚歯科医（指導歯科医・上級歯科医・メンター・ほかの研修歯科医）や職場のスタッフに進んで相談できる。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない
7)	情報共有	・ 患者診療に関する情報や診療所運営上必要な情報の伝達、連絡ができる。	①指導歯科医や同僚に患者診療に関する引き継ぎや注意事項の連絡ができる。 ②指導歯科医、上級歯科医からの指示を適切に伝達できる。 ③患者・診療に関する必要な情報をスタッフと適切に共有できる。 ④事前にわかっている欠勤・遅刻・早退について、事前に連絡でき、スタッフに迷惑をかけていない。	1項目できていない	2項目できていない	3項目できていない	注意・指導しても改善されない

九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修 指導歯科医評価

評価日	令和 年 月 日
研修歯科医氏名（被評価者）	
診療科名	
評価者氏名	

*一般的評価（プロフェッショナリズム・多職種連携）

評価内容	S・A・B・C・Dで評価
1. 職場環境の理解について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
2. 身だしなみについて	S ・ A ・ B ・ C ・ D
3. 挨拶について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
4. 整理・整頓について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
5. 時間・締め切りの厳守について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
6. 報告・相談について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
7. 情報共有について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
8. 日報の提出について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
*総評としてコメントを記載してください。	

*技能および知識に関する評価

評価内容	S・A・B・C・Dで評価
1. 治療手技について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
2. 患者情報収集について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
3. 治療計画立案について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
4. 診療に必要な知識の習得について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
5. 清潔の概念・感染予防について	S ・ A ・ B ・ C ・ D
*総評としてコメントを記載してください	

九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修 多面評価

*一般的評価（プロフェッショナリズム・多職種連携）

評価日	令和 年 月 日
研修歯科医氏名（被評価者）	
職種	
評価者氏名	

評価内容	S・A・B・C・Dで評価
1. 職場環境の理解について	S・A・B・C・D
2. 身だしなみについて	S・A・B・C・D
3. 挨拶について	S・A・B・C・D
4. 整理・整頓について	S・A・B・C・D
5. 時間・締め切りの厳守について	S・A・B・C・D
6. 報告・相談について	S・A・B・C・D
7. 情報共有について	S・A・B・C・D
*総評としてコメントを記載してください。	

自己評価表			研修歯科医氏名		
			(5月)	(9月)	(3月)
診 査 ・ 診 断 ・ 治 療 計 画 ・ 管 理	1	準備・片付け	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	2	術前・術後バイタルサイン・体調確認	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	3	初診医療面接	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	4	再診医療面接	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	5	口腔内写真撮影	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	6	エックス線撮影・読影	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	7	麻酔（OA+浸麻・伝麻）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	8	ラバーダム防湿	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	9	診療録記載（入力）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	10	文書発行（処方箋・管理文書等）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	11	紹介状・照会状作成	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
予 防 処 置	12	動機付け	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	13	ブラッシング指導	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	14	フッ化物応用	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	15	Hys処置	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	16	予防填塞（シーラント）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	17	メンテナンス（SC・SRP・PMTc）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
歯 冠 修 復 （ 充 填 ）	18	窩洞形成	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	19	歯面前処理（EE・EB）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	20	充填	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	21	形態修正・咬合調整	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	22	研磨	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
歯 内 治 療	23	天蓋除去／修復物・コア除去および根管口明示	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	24	根管長測定（EMR）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	25	根管形成	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	26	根管洗浄・貼薬	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	27	根管充填	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	28	仮封	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
歯 周 治 療	29	歯周組織検査（基本）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	30	歯周組織検査（精密）	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	31	SC 全額	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	32	SRP 前歯・小臼歯	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	33	SRP 大臼歯	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	34	咬合調整	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	35	固定	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	36	口腔機能低下症評価	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
機 能 評 価	37	小児口腔機能発達不全評価	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4
	自己評価基準 1 （未経験）：理解はしているが行う自信がない。 2 （見学）：かなりフォローが必要だが、やりたい。 3 （体験）：そばについてくればできる。 4 （習得）：一人で実施できる。		指導歯科医 印	指導歯科医 印	指導歯科医 印

自己評価項目		(5月)	(9月)	(3月)
歯冠修復 (クラウン・インレー)	38	支台歯形成（支台築造含む）／窩洞形成	1・2・3・4	1・2・3・4
	39	連合印象採得	1・2・3・4	1・2・3・4
	40	プロビジョナルレストレーション（TeC）作製仮着／仮封	1・2・3・4	1・2・3・4
	41	咬合採得	1・2・3・4	1・2・3・4
	42	歯科技工指示書作成	1・2・3・4	1・2・3・4
	43	試適・調整	1・2・3・4	1・2・3・4
	44	合着	1・2・3・4	1・2・3・4
欠損補綴 B r	45	支台歯形成（自験）	1・2・3・4	1・2・3・4
	46	連合印象採得	1・2・3・4	1・2・3・4
	47	咬合採得	1・2・3・4	1・2・3・4
	48	プロビジョナルレストレーション（リテーナー）作製仮着	1・2・3・4	1・2・3・4
	49	歯科技工指示書作成	1・2・3・4	1・2・3・4
	50	試適・調整	1・2・3・4	1・2・3・4
	51	合着	1・2・3・4	1・2・3・4
欠損補綴 P D ・ F D	52	鉤歯・対鉤歯調整	1・2・3・4	1・2・3・4
	53	個人トレー作製・調整	1・2・3・4	1・2・3・4
	54	連合印象採得	1・2・3・4	1・2・3・4
	55	咬合採得（咬合床作製）	1・2・3・4	1・2・3・4
	56	歯科技工指示書作成	1・2・3・4	1・2・3・4
	57	試適	1・2・3・4	1・2・3・4
	58	調整・研磨・装着	1・2・3・4	1・2・3・4
口腔外科 処 置	59	調整（再診）	1・2・3・4	1・2・3・4
	60	脱臼・抜去・搔爬	1・2・3・4	1・2・3・4
	61	洗浄	1・2・3・4	1・2・3・4
	62	縫合・止血確認	1・2・3・4	1・2・3・4
	63	止血床・その他	1・2・3・4	1・2・3・4
	64	切開・排膿（AA以上）・搔爬	1・2・3・4	1・2・3・4
	65	スプリント・ナイトガード等	1・2・3・4	1・2・3・4
応急 処 置	66	スプリント・ナイトガード調整	1・2・3・4	1・2・3・4
	67	切開排膿（GA）	1・2・3・4	1・2・3・4
	68	皮膚・粘膜縫合	1・2・3・4	1・2・3・4
	69	（亜）脱臼歯・動揺歯固定	1・2・3・4	1・2・3・4
	70	有床義歯修理	1・2・3・4	1・2・3・4
	71	TeC・リテーナー修理、仮着	1・2・3・4	1・2・3・4
	72	再装着	1・2・3・4	1・2・3・4
訪問 歯 科 ・ 周 術 期 診 療	73	患者情報の収集・分析	1・2・3・4	1・2・3・4
	74	訪問歯科・周術期診療の準備	1・2・3・4	1・2・3・4
	75	患者・家族との情報共有	1・2・3・4	1・2・3・4
	76	多(他)職種との情報共有	1・2・3・4	1・2・3・4
	77	口腔衛生管理（口腔ケア）	1・2・3・4	1・2・3・4
	78	管理計画策定	1・2・3・4	1・2・3・4
	79	診療録記載・文書作成交付	1・2・3・4	1・2・3・4

研修目標書き出しシート

番号 _____ 氏 名 _____

短期的目標（研修期間中に達成したいこと）

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

中・長期的目標（研修修了後に目指すこと）

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

年 月 日

行動計画書き出しシート

「自分の目標」を実現するための具体的な行動計画

短期的目標に対して

--

中・長期的目標に対して

--